

第一十四回
參議院商工委員會會議錄第
二十一回

昭和三十一年五月二十九日(火曜日)午後一時五十九分開会

本日委員會井治三郎君及び上條慶一君
辞任につき、その補欠として小野義大君
及び松澤兼人君を議長において指名
した。

出席者は左の通り
委員長 三輪 順吉

卷之三

委員

西川弥平治君
白川一雄君
阿具根登君
山川良一君

上原正吉君
古池信三君

高橋
苦米地義三君
深水
六郎君
海野
三朗君
小松
正雄君

政府委員

経済企画庁
計画部長

通商產業	川野
政務次官	芳滿君
臣官房長	通商產業大
通商產業省公	岩武
事業局長	照彦君
川上	爲治君

第九部
商工委員會會議錄第三十九號

昭和三十一年五月二十九日

卷之三

○電源開発促進法の一部を改
法律案(内閣提出、衆議院送付)
○参考人の出席要求に関する
○委員長(三輪貞治君) ただ
委員会を開きます。
まず委員の異動について申
す。本日、上條愛一君が辞任
の補欠として松澤兼人君が指
した。以上御報告申し上げま
○委員長(三輪貞治君) 次に
促進法の一部を改正する法律
といたします。本案に対し質
方は順次御発言を願います。
○海野三朗君 昨日の新聞を
と、小坂総裁の証人喚問につ
るいろいろ覚内での意見がまとま
うに新聞に出ておりますが、
との関係は一体どうなんですか
○政府委員(川野芳瀬君) ま
縮でございますが、私によつ
たしております、ゆうへお
ました関係上、新聞を私も見
ございまして、その内容はわ
りますから、御了承願います。
○海野三朗君 それは、つま
力で再三工事請負の金の増加
た、しかしそれが不調に終つ
るがその間組との間に某政党
介在しておるというような
か聞かなかつたというような
小坂総裁に何をしゃべられる

とで非常にこの工事が違ってきたといふことは、結局も画になつていなかつた、それが結果もうような点が大きな理由だと、われわれは考えております。これは私の方をしてしましても電気より資料を出させまして、いろいろ検討いたしました結果をういう結論を出しておるわけでござります。その間組の関係と申しますのは、先ほど申し上げましたよくなじみます。その二百数十億の計画でそのうち間組あるいは熊谷組に対しまして工事の請負をして、そのうちの金額としましては八十数億であります。そういう計算で下請をさしたわけでござりますけれども、その後工事の量が先ほども申し上げましたように非常にふえてきたと、いうような関係から、この間組なりあるいは熊谷組に対する、この支払いの金額そのものも、これは非常にふえるることに相なるわけでございますが、実際のやり方としましては前に契約をしたもので現在支払っておるわけでございまして、ただ増額分につきましては、すなわち工事量が非常にふえたという関係の費用につきましては、これはあるいは融資という形、貸付という形で現在金を一部出しておるわけでございまして、最後の、じゃ木契約といふものは——増額についての本契約といふものはまだきまつております。それに関連しまして、先ほどお話をありますところだけにしてもらいたいという要求があることはこれは当然だらうと思う

の請負会社との間の話し合いというものがただついていないよう聞いております。私どもの方といたしましては、じやどういう要求があつてどういふうに話がついているということはまだ報告を受けておりません。ただいろいろ出先のところで交渉があるようには一応聞いておりますけれども、その点は私どもの方といたしましては、はつきりいたしておりません。

○海野三朗君 よく世間にはあることであります、入札のときには安く入られて、それからあとだんだん入札の額を仕事がふえたからとか何とかという名目で増大していくというのは、よく世間にはそういうふうなずるいやり方があるんですが、間組も初め落札した当时においては、やはりその開発会社は詳しくその内容についても調べないでほんやりとしてあれはやらせたのでありますか、また通産省として電源開発に万事まかせてめくら判を押したというわけでありますか、その辺いかがなものですか。

○政府委員(川上為治君) これは最初契約をしますときには、もちろんこまかい計画のもとに契約することになりますので、間組なり、あるいは龍谷組と電発との間に詳細そういう点につきまして、工事のこまかい部面につきまして検討し、また単価につきましても最も公正な単価でわれわれの方といたしましてはきめてあるというふうに考えておるわけでございます。なお

その際におきまして通産省としてどの程度タッチしたかという問題であります

が、通産省といいたしましてはこうい

う請負工事だけの問題じゃなくて、全

体の工事につきまして、相当こまかく

やはりしょっちゅう検討しております

て、電発の報告も受けました事前に承認

もしておりますので、そういう点につ

きましては相当詳細に私どもの方とし

ましては検討しました結果、許してお

るわけでござりますから、私どもの方

としましては別にこの問題について何

か特別な事情があるというようなこと

は聞いておりません。

○海野三朗君 私が申し上げたいと思

うのは、そういうふうな工事を請負う

てから、あとから引き合わないから上

げてくれというようなことを言ってく

るのは、初めに許可したときの当事者

の疏漏と申しますか、考えの非常に難

駭な態度であなたからして、そういう

問題が起つてくるのだ、それに対しても

通産省はただ開発会社がこういうふう

にしたからというのでただめぐら判を

押されるか、それを私伺つておるので

あります。通産省にしてもこの二百三

十億で入札せしめたやつが三百六十億

もかかるのだというような案を出され

ます。しかし初めのこの約束を実行する

に当つて、一がいにここに大体百三十

億もの差額が生ずるようなずさんな請

負工事はいけなかつたのじやないかと

責任についてはわれわれも十分感じて

いうことを私は言つておるのです。い

かがなものですか、その点。

三十億くらいの工事計画というものが

これは非常に皆さんではなかつたかと

いう点につきましては、これは実は非

常に急いでやりました関係から、非常

を大体そのまま踏襲してやろうじゃな

いかというようないきつになつてお

りましたようあります。そのため

に最初の案というのは今先生がおつ

しゃいましたように、どちらかと申しま

すとある程度ずさんな点があつたよう

にわれわれの方では考えます。その後

実はいろいろ設備しなければならぬ点

がふえて参りました、先ほども申し上

げましたようによくかけかえの問題

につきまして根本的にこれは違つた問

題が出て参りました、そのため約七

十億ふえるというような問題が出てお

ります。その他いろいろなこまかいと

ころにつきまして、相当最初の計画に

載つていなかつた、あるいは最初の計

画と違つた点が出て参りました、工事

をそのために増設したりそのようなこ

とを行いました結果が、相当の金額こ

れはふえたわけございまして、われ

われの方としましても、そんなにふえ

たことについていろいろ検討しました

結果としましては、これはやむを得な

いというようなふうに実は考えておる

わけでございまして、ただ先生が今

おっしゃいましたように、最初原案そ

のものがずさんきわまるものじやな

かったかという点につきましては、その

責任についてはわれわれも十分感じて

おるわけでございますけれども、当時の事情としましてはああいう画期的な

な、非常に大きい、しかも外國の技術

を持ってきてやるようなものにつきま

しては、日本で初めてであります

で、どうしてもそういうふうなそこが

あつたということはこれはやむを得な

いことではないかというふうに私ども

おつししましては考えておるわけでござります。

○海野三朗君 そういうことについて

は通産省の方ではお調べになる技術者

がおりませんのですか。

○政府委員(川上篤治君) 私の方とし

ましては、実は非常に技術者が豊富に

あるわけでございまして、またそのボス

トにつきまして、たとえば技術長と

いうようなポストがありまして、この

公益事業局の技術長、これを中心にし

て、こういう問題につきましては十分

まで相当のスタッフを持っております。

課長にも相当数技術者がおります

し、しかも月に何回か監理官を派遣

しまして、そして検討をやつております

ので、私どもの方のあれとしまして

伺うのでありますですが、そうすると通産

省としての技術的な立場からの觀察と

申しますが、その設計に対する洞察と

伝えられるような特別な問題じやなく

て、ほんとうに工事が非常にふえたと

いいうようなふうに実は考えておる

われの方としましても、そんなにふえ

たことについていろいろ検討しました

結果としましては、これはやむを得な

いというようなふうに実は考えておる

わけでございまして、ただ先生が今

おっしゃいましたように、最初原案そ

のものがずさんきわまるものじやな

れを実行するに当たりまして、佐久間の

問題については非常に急いだ関係もあ

りますので、最初の、これは中部電力

が主になって作った案ですが、その案

が主になつて作つた案ですが、その案

はおつししましては、それはあります

が、私は見通しといふものがなけ

ればならない。やつてみなければわか

らない、やつてみた結果がこういうこ

とが起つてきました、ああいうことが起つ

てきたという場合もそれはありますよ

う。ありますしょうけれども、工事につ

いては専門家はそんなことはわかって

いるはずなんです。地質学上から見

たつてわかっているはずです。それを今

日になつて、こういう問題を引き起し

たということは通産当局に技術者がい

たつてわかつているはずです。それを今

おつしやればまことにその通りなので

を調査しないでますその案で始めたと

ですが、私の方としましては非常に急が

お話をありましたように、どうも最初

の案というものがずさんではないかと

おつしやればまことにその通りなので

ます。課長にも相當数技術者がおりま

して、しかも月に何回か監理官を派遣

しまして、そして検討をやつております

ので、私どもの方のあれとしまして

伺うのでありますですが、そうすると通産

省としての技術的な立場からの觀察と

申しますが、その設計に対する洞察と

伝えられるような特別な問題じやなく

て、ほんとうに工事が非常にふえたと

いいうようなふうに実は考えておる

わけでございまして、ただ先生が今

おっしゃいましたように、最初原案そ

のところに、こういうことが起つてくる。私は一向そういう方面的技術的観察と

いう点については、通産省の方はほと

んどゼロじゃないかというふうに思う

のです。いやしくも通産行政を担当し

ておられる本省においては、もう少し

はつきりした見通しといふものがなけ

ればならない。やつてみなければわか

らない、やつてみた結果がこういうこ

とが起つてきました、ああいうことが起つ

てきたという場合もそれはありますよ

う。ありますしょうけれども、工事につ

いては専門家はそんなことはわかって

いるはずなんです。地質学上から見

たつてわかつているはずです。それを今

おつしやればまことにその通りなので

ます。そこでこの小坂縦断の問題につい

ても、何ゆえにこれを増額するとい

うそりを免れないと私は思うので

す。そこでこの小坂縦断の問題につい

ても、何ゆえにこれを増額するとい

うそりを免れないといふのがな

いふのでありますから、それを私は伺いたい。これは御本

人でなければわからないのであります

しょうが、どうしても私はこそこそ

りしておきたい。金高のこういう大き

なものでありますから、よく世間にあ

りがちな、ここに利権屋が入つて、そ

うしてやらせるといふのがな

いふのでありますから、私はここ

に国民全体として非常に疑惑の眼を

もつて見られている、それが非常に遺

憾であると思うのであります。そういう

点からして、私は通産省にきびしく

そういうことについてはたださなけれ

ばならないと思う。こういう事業につ

いてははつきりわかつていいなければならない。ちょうど一軒の家を建築する

○政府委員(川上篤治君) これは電源

開発促進法を作りました、そうしてこ

れが幾ら技術者があつてもほんやりし

場合においては、くぎ何本まで設計者

がきめて、そうしてそのくぎ一本にも誤まりがないのである。これがいわゆる建設をする者の権威であつて、それが全然なつっていない。そういう点はどういうふうに局長はお考えになりますか。

○政府委員(川上爲治君) この増額、この全体の工事費が大きくなつた、中を調べてみますというと、先ほども申し上げましたように飯田線、すなわち国鉄の線路のつけかえの問題が、最初は別につけかえしなくともよいではないかというふうに考えて設計されていたようあります。ところがその後いろいろ調べました結果、どうしてもこれはつけかえをしなければならぬという問題と、それからもう一つはそこ、これはトンネルを通っていくわけなんですが、そのトンネルのところの地質関係がこの最初の案で調べてあるものと相当違つておるということがはつきりいたしまして、そのためにはキロ当りのこの鉄道の工事費といふものが普通のものよりも相当高くなつてきた、そういうような関係もありまして、鉄道のつけかえ工事というのが、非常に大きな金額がそれだけふえておるわけでござります。それからまたこの用地の買収費等につきましても、実はそのとき計画した場合におきましてと、それからその後におきまして静岡県あるいは愛知県あるいは長野県、そうした方面といいろいろ折衝いたしまして、そういうような関係からこれだけでも相当の金額がふえておるわけである、そういうようなものがあえてきておられます。そういうようなことにつきま

しては、最初からなかなかこれは予定し得なかつたものではないかといふうにわれわれは考へるわけなんですが、その後いろいろ調べてみましたところが、鉄道のつけかえもやらなくちやいかぬし、またつけかえるべき地点については調査をした結果は、どうもほかの地域なんかと比べますというと非常によけいかかるというような問題が出て参りましたし、それからまた用地の買収等につきましても必要以上に買収しなければならぬという事態がやはり生じたというような、そういう關係から実はふえて参つておるわけでありますまして、私の方としましては、先ほども申し上げましたように最初の計画そのものがある程度まあさんといいますか十分検討の前に調査がどうして必要なんですが、その調査それ自体が非常に十分でなかつたという点からこういう計画が私は變ってきたんじやないかと思うのでありますて、その点につきましてはいろいろわれわれの方としましても技術的に検討しました結果、やはりやむを得ないものがあるといふふうに考へておるわけでございまして、何か世間で言つておりますよな、そういう特別な問題につきましてはわれわれ全然知りもしませんし、閑知いたしておりません。先ほども先生からお話をありましたように、どうもそういう最初の計画そのものがござんで、あつたたどいことは通産省の技術陣営がだらしないのじやないかというふうに聞えますけれども、初めてのこういう大工事でありますし、日本では全く類例のない工事でありますので、しかも非常に急速にこの開発を行なうべきだという関係もありますので、

私の方の技術陣営にしましても、最初におきましてはそういう点について十分の調査ができるいかなかったという点については、これは私はおわびしなければならないかと思うのですけれども、しかしその当時相当の日子をかけて調査したその上で始めるということになりますればおそらく佐久間の工事は今ごろまだできてはいないというようには私は考えるのですが、決してそれで弁解をするわけじゃありませんけれども、やはり私はこういう大きな工事については初めての経験でありますのでやむを得なかつたじやないかということふうに考えておるわけでございまして、今後、田子倉なり、あるいは只見の開発なり、あるいは御母衣の開発等につきましてはそういう遺漏がないよう十分気をつけてやりたいと思っておりますし、現にそういうつもりいろいろ電気につきましても指導監督をしておるわけであります。

の方についてはずいぶん通産当局の方には人がいないというふうにしか考えられない。それでこれだけ増額して、それが、小坂編裁はどういうふうな態度でおつたのでありますか。こういうことについては幾ら局長が弁明されても私は通産当局の想定が誤ったんではあります。不行き届いてあつたのであるといふように私は考へざるを得ないのであります。これもやむを得なかつたとあなたはお考へになつていらつしゃるのか。やむを得なかつたじやなくて、通産当局の技術的な方面の監督が不行き届きであつたと、私は率直に申し上げてそういうふうに考えられるのであります。あなたはどういうふうにお考えになりますか。

られます。その点についてその後いろいろ技術的に検討してみますというと、どうしてもこれはダムの地点、あるいは発電所の地点、そういう関係から鉄道をつけかえなければならぬという問題が生じて、鉄道のつけかえというのをやった結果、しかもそのつけかえ工事についてはほかのいろんな地図と違って、非常に地盤がやわらかであるために、そのためには鉄道のトンネル工事がよけいかかつたというような問題が起きまして、そのためにまあ全体として非常に大きくなつた。すなわち最初の原案と比べますと百三十億くらいふえておりますが、その百三十億くらいふえておる中で、鉄道だけでも約七十億くらいかかるかつておりますので、非常に大きなものじゃないかと考えられます。これも私はいろいろ検討した結果、どうしてもその後の案でいかなければならぬという結果になりました。結果、そういうようなことになつたんじゃないかというふうに考えます。それからたとえば湖岸の道路の問題といったとしても、湖の両側に道路をつけるという問題、これは実は私が責任しましてからも問題が残っております。そして、私としては別にそういうふうな湖岸道路を作る必要はそれほどないじやないか、作つたてそれはど広い道でなく小さな道でもいいじやないかといふような意見も私は一応持つて、いろいろ関係方面と折衝をしたのですが、建設省あるいは農林省あるいは静岡県その他の各県、そうした方面といふ

河川一地域において二つの電気事業者が競合してはならないというような考え方がありましたがために、こういう問題の起る余地がなかつた。ところが最近においては一河川に二個以上の電気事業者が開発をするという事態がたくさん起つて参りまするために、こういう考え方方が出てくるわけであります。

この電源開発法の改正、今回されておる一部改正というものが、電発法ができて四年間の実施の間において気づかれていろいろな不備の点の總決算とは思わないわけです、もっと近い機会に大きな根本的な、検討をする必要に迫られておるのじゃないか。そういう気がするのですが、これは大臣に聞くのが一番いいと思うのですが、幸い通産政務次官が見えておりますから、一つ御所見を伺いたいと思います。

でありますと、やはりこういうような種類のものにつきましては、裁判の規定があるわけなんですが、この規定につきましては、一種の強権的に裁判をするということになりますので、なるべく民主的に話し合って、その負担額については極力話し合いによって話をつけてもらいたい、それからもし話がなかなかむずかしいときにおきましては、あるいは通産省が仲に入るとか、あるいは第三者が仲に入つて話をつけ

協議がいわゆるととのわなかつた場合、当事者の一方は裁判所に対し提訴することができるわけですね、そういうことも予想されておりますか。

○政府委員(川上篤治君) その協議をすべきということについての訴えといふことについては、これは提訴はできませんけれども、しかし、じやあその値をきめろという問題については、これはなかなか提訴の対象にはならないのじゃないかというようなふうに考える

○委員長(三輪貞治君) それでは速記をつけて下さい。

電源開発促進法の一部を改正する法律案の審査のため参考人から意見を聞くことに御異議はございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(三輪貞治君) 御異議ないで認め、さよう決定いたしました。

なお参考人の選及び日時等についてはこれを委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ございませんか。

東北電力では、下流の発電所の利益ともに増加をはかつて、上流に調整ダムの建設を計画しておった。それがいろいろな事情で別な経営主体によって開発をされる、そして自分の計画しておった計画はできない上に、そのダムのできることによって受けるであろう利益はそれを何ほどか徴収をされか、こういう形になつて参りますと、非常にこれは問題が複雑だらうと思うのです。受益者負担を払つた会社が、その出たものを買うものでありますれば、その卸売の代価の交渉のときに何ほどでも調整ができるわけがありますが、全然別な地域にもつていかれるというところに非常に複雑な問題が起つてくると思うのです。従つて私は将来においてはもとと電気事業そのものに根本的な再検討を加えることが必要ではないか。あるいは九電力会社そのものも決してこれが正しい形だとは思いません。今日、電気事業者の経営の能力とかそういうことを度外視して、地理的な条件、需用量の問題等ですでに九電力会社間に一つのもう力の段差がついて参りまして、この方面にも再検討を加えるべきじゃないか、こういふうにも考えるわけですから、私は〇政府委員(川上鶴治君) 普通の法律な御意見であろうかと思います。一河川一電力業者と、こういうような事態におきましては、利害係関が相反しませんで、従つて今回この法律案の対象になるような問題は起らなかつたと考えるのであります。現在におきましてはその法律もございませんから、従つて本案のごとき法律をもつてある程度規制することの必要が痛感されまして、この法律案を出したような次第であります。しかし将来におきましては、お説のように根本的の問題を検討することも必要かとも考えますから、十二分にその点等につきましては考慮してみたいと考える次第であります。

○委員長(三輪貞治君) 次に、負担額の問題ですが、これは当事者間の協議により、ダム等の設置または改良に関する工事によって生じた利益の総額に対する割合に応じてその額をきめる、こういうふうになつてゐるわけです、しかもしも協議がととのわなかつた場合どうするかという裁定の措置が全くとられておらないのですが、その理由は一体どういうところにあるのですか。

でもらうというようなことに、まあ民主的に一つ運営しようというような考え方をもちまして裁判の規定は入れなかつたわけでございます。私どもとしては、今御指摘の通りに、そういう裁判の規定というのがないということは、法律的に見ましても一応専門のように考えますけれども、一応こういう制度でいろいろ自主的に運営して参りまして、それでもなお話がつかないというような場合にはおきましては、またこの委員会におきまして、その際は裁定の規定を入れてもらいたいというような気持を持つてゐるわけなんですが、できる限り自主的に解決し、われわれもまたの場合によりましては仲に入つて行政指導をして話をつけていきたいというふうに考えております。

わけでありまして、その点につきまして、この法律は裁定の規定がありませんで、一応欠陥を持っているわけでござりますけれども、先ほども申しましたように、まあ自主的にやってみて、そうしてどうしてもうよく行かんという場合におきましては、強権的な裁定の規定を入れなければいかんのじゃないかというふうに考えておりますが、これはむしろ委員長もいきさつについてよく御存じだと思いますので、私どもいたしましては、極力行政指導によりまして話がつくようにもつていただきたいというふうに考えております。

○委員長(三輪貞治君) この問題に関しては、まだいろいろな根本的なこともありますので、あとの機会に譲つておきたいと思います。ほかに御質問ありますか。

ちょうど御質問がないようですから、この際報告しておきますが、たまたま委員の異動がございました。滝井治三郎君が辞任され、その補欠として小野義夫君が指名されましたので報告いたします。

○委員長(三輪貞治君) 御異議ないと言ふ者あり認め、さよう決定いたしました。本日の委員会はこれをもつて散会いたします。

午後二時五十一分散会

この電源開発法の改正、今回されておる一部改正というものが、電効法ができて四年間の実施の間に於て氣づかれていろいろな不備の点の總決算とは思わないわけです、もっと近い機会に大きな根本的な、検討をする必要に迫られておるのじゃないか。そういう気がするのですが、これは大臣に聞くのが一番いいと思うのですが、幸い通産政務次官が見えておりますから、一つ御所見を伺いたいと思います。

○政府委員(川野芳満君) ごもつともな御意見であるうかと思います。一河川一電力業者と、こういうような事態におきましては、利害関係が相反しませんで、従つて今回この法律案の対象になるような問題は起らなかつたと考えるのであります。現在におきましてはその法律もございませんから、従つて本案のごとき法律をもつてある程度規制することの必要が痛感されまして、この法律案を出したような次第であります。しかし将来におきましては、お説のようく根本的の問題を検討することも必要かとも考えますから、十二分にその点等につきましては考慮してみたいと考える次第であります。

○委員長(三輪貞治君) 次に、負担額の問題ですが、これは当事者間の協議により、ダム等の設置または改良に関する工事によって生じた利益の総額に対する割合に応じてその額をきめる、こういうふうになつてゐるわけです、しかもしも協議がとのわなかつた場合どうするかという裁定の措置が全くとられておらないのですが、その理由は一休どういうところにあるのですか。

でありますと、やはりこういう規種類のものにつきましては、裁定の規定があるわけなんですが、この裁定につきましては、一種の強権的に裁定をつけてもらいたい、それからもし話がつけてもらいたい、その負担額についても極力話し合いで話をするといふことがありますので、なるべく民主的に話し合って、その負担額あるいは遅延省が仲に入るとか、あるいは第三者が仲に入つて話をつけてもらいたい、そういうことになります。私どもとしては、今御指摘の通りに、そういう裁定の規定というのがないということは、法律的に見ましても一応専らのように考えますけれども、一応こういう制度でいろいろ自主的に運営して参りまして、それでもなお話がつかないというような場合にはおきましては、またこの委員会におきまして、その際は裁定の規定を入れてもらいたいというような気持を持つてゐるわけなんですが、できる限り自主的に解決し、われわれもまたの場合によりましては仲に入つて行政指導をして話をつけていきたいというふうに考えております。

○政府委員(川上為治君) その協議をすべきということについての訴えということについては、これは提訴はできませんけれども、しかし、じゃあその値をきめるという問題については、これはなかなか提訴の対象にはならないのじゃないかというようなふうに考えるわけであります。その点につきまして、この法律は裁定の規定がありませんので、一応欠陥を持っているわけでございますけれども、先ほども申しましたように、まあ自主的にやってみたところしてどうしてもうまく行かんという場合におきましては、強権的な裁定の規定を入れなければいかんのじゃないかというふうに考えておりますが、これはむしろ委員長もいきさつについてよく御存じだと思いますので、私どもといたしましては、極力行政指導によりまして話がつくようにもつておきたいと思います。ほかに御質問でございたいというふうに考えております。

○委員長(三輪貞治君) それでは速記をつけて下さい。

電源開発促進法の一部を改正する法律案の審査のため参考人から意見を聞くことに御異議はございませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(三輪貞治君) 御異議ないと言認め、さよう決定いたしました。

なお参考人の選定及び日時等についてはこれを委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ございませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(三輪貞治君) 御異議ないと認め、さよう決定いたしました。

本日の委員会はこれをもって散会いたします。

昭和三十一年六月一日印刷

昭和三十一年六月二日發行

參議院事務局

印刷者 大藏省印刷局